**教育臨床心理（前田）（木４）過去問解答例2008年度夏学期**

【問題１】先月、東京・秋葉原で起きた無差別殺傷事件は、下記のような被疑者の特徴からみて典型的な自己確認型犯罪者であると考えられる。このことについて、下記の容疑者の特徴をすべて引用して論述せよ。

|  |
| --- |
| 容疑者は幼少期からいわゆる「できがよい子」で小学校・中学校で学力は優秀、県内Ｎｏ．１の進学校に入学。高校からは学業不振が続く。それを「親が息切れしたから（自分の勉強を教えられなくなったから）」といって親の責任にする。インターネットの掲示板で無差別殺傷事件を起こすことを予告している。自分の住むところ（静岡県裾野市）ではなく、東京・秋葉原で事件を起こしている。 |

【解答１】

容疑者は，幼少期から高校入学時まで学力優秀であり，自己概念は肯定的であり自尊感情も高かった。しかし，高校では学業不振が続き，自尊感情が低下し精神的に不安定になった。精神的不安定を避けるため，学業不振は「親のせい」であると合理化している。しかし，やはり自尊感情の低下は避けられず，主観的なものである自己評価を有利に行おうとし，自己愛傾向の強かった容疑者は，インターネットの掲示板に殺人予告を行うという，自己顕示的行動をとり，他者から注目を浴びようとした。なお，自分の住む地域以外で事件を起こしたのは，地元では，客観的評価である社会的比較がすでに固定していて，その比較が容疑者にとって自尊感情を低下させるものだからである。

【解説１】

テキストp.4， pp.61-72，pp.89-92。最後の要素（自分の住んでいない地域での事件）の説明は，あんまり自信ないです…。

【問題２】日ごろの厳しい稽古によって心身ともに強靭であるはずの大相撲のある力士が、重大な過失によって相撲協会から厳重な注意とともに出場停止の処分を受けたことによって、心身の不調を訴え解離性障害と診断された。このことについて、
（１）解離性障害とはどのようなものか述べよ。
（２）また、この力士が解離性障害に至った心理的メカニズムについて、防衛機制の心理と関連させて説明せよ。なお、解答には防衛機制の具体的・日常的な例を必ず含むこと。

【解答２】

(1)解離性障害とは，心理的に不安定になるような不快な記憶や出来事を，現在の意識と切り離すことで，意識にのぼらないようにしてしまうこと。その結果，記憶の連続性が無くなったり，失われたりする。

(2)重大な過失によって様々な処分を受け，心理的に不安定になり，防衛機制のひとつである逃避がはたらく。逃避とは，例えば授業の予習をしていないから授業に出席しないといったように，不愉快な場面から逃げて，問題の根本的解決をしないことである。逃避のはたらきが強くなると，嫌なことと自分の意識を切り離すようになり，解離が起こる。

【解説２】

テキストでは，p.3です。(2)の例が貧弱ですみません（笑

【問題３】人は自尊感情を高めようとして（低下するのを防ごうとして）、無自覚的・無意図的に「あの手この手」を使っている。この「あの手この手」の心理について次の各問いに答えよ。

［問１］栄光浴についてバランス理論を用いて説明せよ。
［問２］内集団的態度について社会的アイデンティティ理論を用いて説明せよ。

【解答３】

[問１]ある人Ａが，他者Ｂから好意的に見られたいと思う場合を考える。Ｘという項目についてＢがプラスの評価をしているとわかれば，Ａは「自分とＸの間にはプラスのユニット関係がある」とＢに主張することで，Ａ・Ｂ・Ｘ間におけるセンチメント関係のバランスをとることができる。結果として，ＡはＢから好意的な評価を得ることができる。

[問２]自分をある集団の一員として位置づけ，集団の規範や価値観，行動様式に同調するようになる。そして，自分の所属する集団を高く評価したり，ライバル集団や自分の属さない集団の価値を下げたりすることで，自尊感情を高めようとする。これが内集団的態度である。

【解説３】

[問１]プリントpp.53-54。「自己の間接呈示（自分に有利な印象を相手に与えようと，操作する）」がこれです。バランス理論では，三角形の関係を書いたときに，プラスマイナスが掛けて正になるようにします。栄光浴だから，全部プラスになるような説明が必要です。

※「栄光浴」は自己評価理論（反映）でも，自己高揚理論（セルフハンディキャップ方略）でも説明できます。

[問２]プリントpp.54-55。テキストp.69。内集団的態度をとるためには，自分が所属する集団に，肯定的な評価や感情を持つことが必要。

【問題４】生後１～２年の乳幼児期の経験がその後の性格形成にとって極めて重要であることを、次の（　　）内の語句をすべて用いて説明せよ。なお、（　　）内の語句を用いた箇所は、初出に限りアンダーラインを付して示すこと。
　（愛着行動　内的ワーキングモデル　積極性　生理的早産　自己評価　就巣性　離巣性）

【解答４】

人間は，生理的早産のため，就巣性と離巣性の両方の特徴を兼ね備えた，二次的離巣性をもって生まれてくる。だから，親の養育がなければ子供は生きていくことがまったく出来ない。そこで生存可能性を高めるために，母親にシグナル行動や接近行動といった愛着行動を示すことで，母親との心理的結びつき（アタッチメント）を形成しようとする。愛着行動に対する母親の応答の違いにより，子供の心の中に形成される母親に対する内的ワーキングモデルや，それと同時に形成される自己についての内的ワーキングモデルに違いがあらわれ，子供の性格の違いとなる。母親からの応答が適切なものであれば，「困ったときは必ず助けてくれる人がいる」と自信がつくので，子供の行動に積極性がみられるようになる。しかし，母親からの応答が適切でない場合，「困っても誰も助けてくれない，それは自分がダメだからだ」と自己評価が下がり，消極的な性格になる。このように，子供の愛着行動に対し，母親がどのような応答をするかによって，子供の性格に大きな影響があらわれる。

【解説４】

テキストpp.25-36　プリントpp.18-24です。この問題は…，論述が長くなるのは避けられない気がします。語句をすべて使い切るためには，前提を長々と説明しなきゃいけないし，本題までたどり着くのが大変です。

キーワード

「随伴性探知」…自分の行動によって，外部環境をコントロールできることに気づくこと

「自己効力感」…自分の行動が影響力を持っているかどうかの見通し，期待。

【問題５】大きな失敗をしたり、連続して失敗をしたりすると、落ち込む、気分が沈む、憂うつになるなどの抑うつ感情をだれもが感じる。しかし、それが高じて抑うつ状態やうつ病にまでなるかというと、そのようになる人もいればならない人もいる。このことを素因ストレスモデルという考え方から論述せよ。

【解答５】

抑うつ状態やうつ病は，もともと一定の生物学的，心理学的素因を持っている人が，なんらかのストレス状況を体験したときに発生しやすいとされている。そのため，素因をどの程度持っているかによって同じ体験をしても，抑うつ感情には差があらわれる。生物学的素因として，脳の興奮を抑制し癒しや幸福感を生む作用があるセロトニンというホルモンの分泌が少ないため，抑うつ状態になるという，セロトニン仮説があげられる。心理学的素因として，抑うつ的原因帰属スタイルを持っている場合があげられる。抑うつ的原因帰属スタイルとは，成功場面においては外的で不安定な原因帰属を行い，失敗場面においては内的で安定した原因帰属をおこなう性格のことである。このとき，自尊感情が上がりにくく下がりやすく，将来の見通しも暗くなりがちなので，失敗事態が続くと心理的に不安定になり，抑うつ状態になってしまう。

【解説５】

テキストpp.80-84　プリントpp.60-63。素因ストレスモデルを説明する際に，生物学的素因と心理学的素因の両方に触れておけば，基本方針はＯＫだと思います。素因ストレスモデルは，何にでも応用できそうです。

【解いた感想】

論述の長さが見当つきませんので，ひたすら書いてみました！さすが９０分試験，書き終わるかわからないですね（汗）それとも，もっと短くていいのかな？誰か情報下さい。

同じ事例を用いていても，様々な理論から説明できるので，「～理論」の単語はしっかり覚えておきましょう。事例だけ憶えるのは，かえって危ないかも。